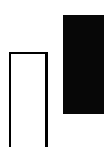


第 11 回「ローソク足 2 本の組合せ」

1 本のローソク足自体でも意味合いは持っていますが、さらに 2 本のローソク足を組み合わせて相場分析を行うほうが、より精度が高くなるのです。

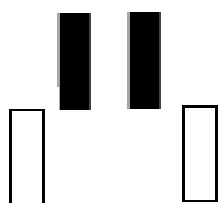
相場の高値圏、安値圏、中段の保ち合い圏等の重要な転換点で、ある形のローソク足が現れた場合は相場の転換を意味するなど、かなりの威力を発揮する重要な 2 本組み合わせをご説明致します。

かぶせ線



大陽線の後、その大陽線の終値より高く始まったものの、終値は前日の実体のなかに入りこむ大陰線。上からかぶさっている形なのでこのように呼ばれる。前日陽線を中心値以下での大陰線形成は、それまでの買い勢力が押し戻されたと見られ、**長期上昇の後ならば買い方針から売り方針に変わる重要ポイント**となる場合が多い。

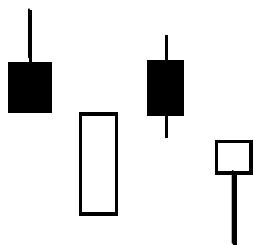
出合い線



前日の線に対し当日の線が上放れ、または下放れで始まったが、大引値は前日最終と同じになったもの。

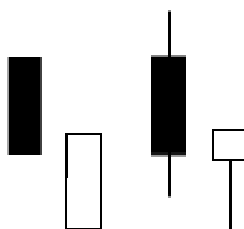
前日の勢い以上で始まったが、結局反対勢力の逆襲に合ったことを示す。**相場の方向にヒビが入りつつあると観測される**ことが多い。

あて首線



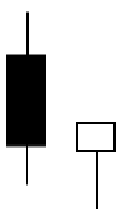
前日大陰線の後、当日下寄りで始まったが前日の終値に届くか届かないかの陽線で、終値は前日の安値以下で止まっており、**買い方の反撃も力不足。高値もみ合い圏、下げの初期で出れば注意が必要。**

入り首線



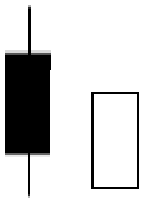
あて首線がさらに伸びて前日陰線に食い込んだが、前日陰線実体の中心より下であり、まだ強い反撃開始とは見られない。**下げ相場初期や中盤では追撃売りの急所とされる。**

差し込み線



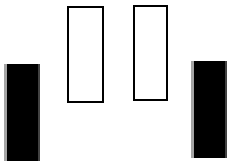
入り首線の陽線が少し長く成って来ているがそれでも前日陰線を中心以下で、まだ反動高の範囲である公算が大きい。**下げ相場初期や中盤では追撃売りの急所とされる。**

切り込み線



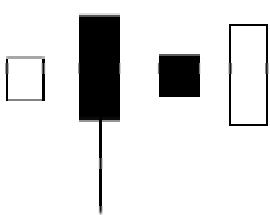
前日の大陰線の中心を上回る大陽線となってきた場合。
当日始値で整理売り一巡となり、次第に前日の失地の大半を取り戻してきたもの。
かぶせ線と逆で**長期下落相場の後ならば重要な買いシグナル**とされることが多い。

たすき線



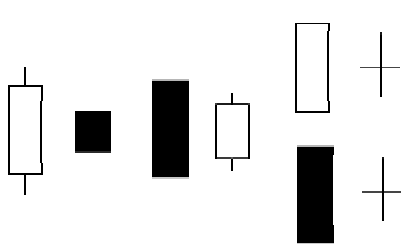
前日陰線の後高寄りして、前日高値以上の終値になった場合や、前日陽線の後安寄り、前日安値以下の終値になった場合。決定的な転換パターンではないが、**目先逆相かいが良いとされており、底値圏では買い、下げ途中では売りを示すとされている。**

つつみ線



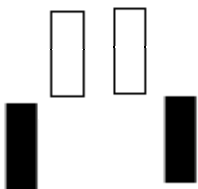
前日の陰陽線とは逆に、しかもその値幅を完全につつむ大陽線、または大陰線。
高値圏での出現は**売り**、安値圏での出現は**買い**であるとされる。
特に**長期上昇（最後の抱き線）、長期下落（抱きの一本立ち）が続いたときは重要な買いシグナル**となる。

はらみ線



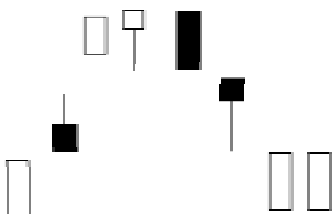
前日の値幅内で動き売り方、買い方ならみ合いの拮抗状態。
前日線が母体、当日線が孕んだおなかの子と見たてたもの。
特に**孕みの部分が寄り引け同事の場合は、それまでの流れが変わる転換暗示**の兆しあり。つつみ線同様に高値圏での出現は**売り**、安値圏での出現は**買い**であるとされる。

振り分け線



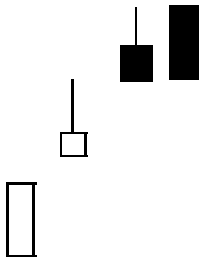
出合い線と対比的。出合い線は終値が出合っているのに対し、振り分け線は始値が同じとなっている形。上昇トレンドのなかでの前日陰線当日陽線は**目先ふるい落とし完了での一段高**。下降トレンドでの前日陽線当日陰線は**目先あや戻し一巡での一段安**。逆張り方針が良いとされている。

並び赤



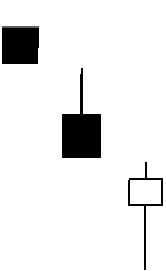
陽線を赤、陰線を黒で記入していた時の名残のことば。
上昇途中での上放れ並び赤は強持合いの相場。
しかし、**下降過程での下放れ並び赤は買い方の防戦買いとみて追撃売りのチャンス**とされている。

並び黒



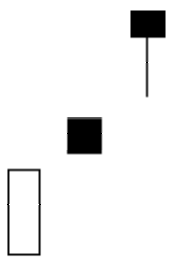
実体部分が同じく並んでいるのは並び赤と同じだが陰線の場合。
特に並び黒が高値圏内であれば買い方を上回る売り方出現中とみて手仕舞い
売りの局面。

たくり線



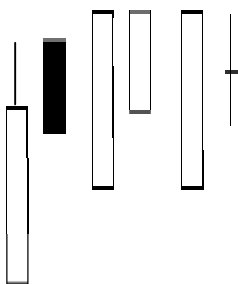
寄りきから安くさらに大きく下に突っ込むが、大引けにかけて地合い一転、長い下
影を残したもの。長期下落後に出れば底打ちからの反転高の可能性が非常に大きい。
実体部分が陽線であれば信頼性の高い買いシグナルである。

首吊り線



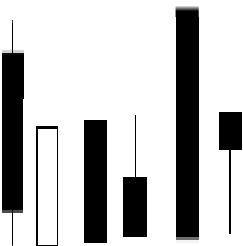
高値波動期に入って来た証拠で、長期上昇のあとに出れば売りシグナルである。
「首吊り」の形が以下にも意味ありげである。

毛抜き天井



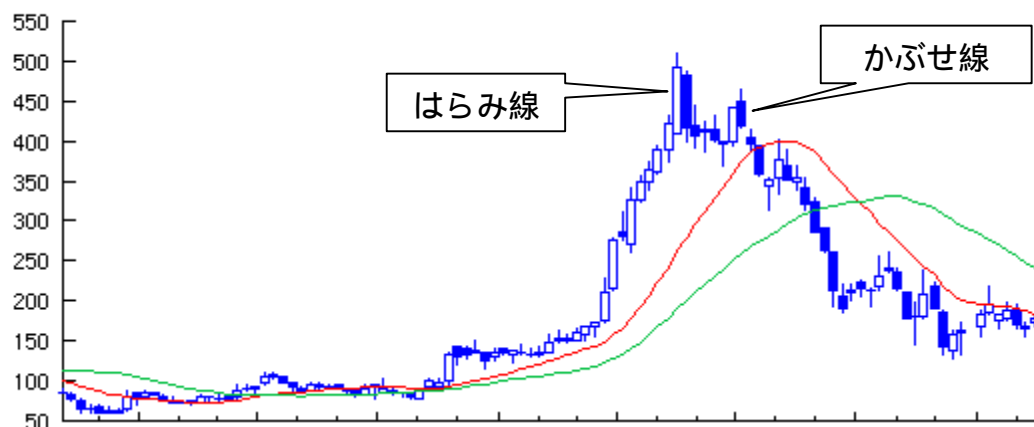
前日高値と当日高値が同じで毛抜きの形に似ている為につけられた形。
もっとも典型的なのは両方陽の丸坊主高値。この他にも色々な組合せが考えられる
がいずれも解釈は同じである。長期上昇後の天井圏に出れば売りシグナルとなるが
上昇途中でも出るので即断は禁物である。

毛抜き底

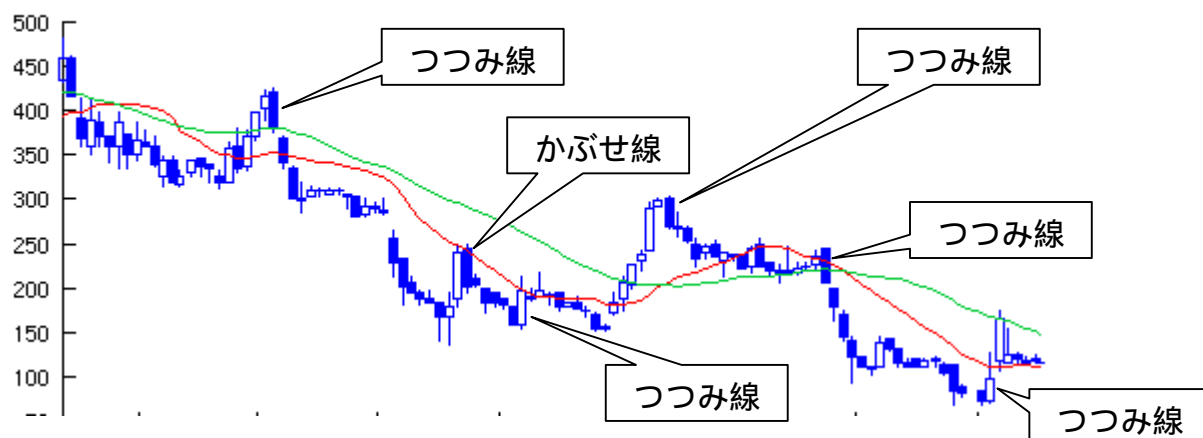


毛抜き天井の逆である。
前日が大陰線で当日安値が前日安値と並んでいるもので、下値を守りきったとの
感触から底値感が広がり急速に反発することが多く、長期下落の後に出現すれば
大底になる事が多い。下げの途中でも出現するので即断は禁物。

以上が代表的なローソク足の2本組み合わせの形です。プリントアウトし日々眺めていれば自然に覚えていくと思います。又はプリントアウトした紙を見ながらチャートを見ても良いと思います。ゆっくりとでも馴染んで行く事が株式投資の勝者になる道だとお考え下さい。下のチャート図をご覧ください。



長期上昇後「はらみ線」出現、その後下落、再上昇するも「かぶせ線」出現で一直線の下落。



上のチャート図をご覧くださいければ解る様に相場の節目節目に2本組合せの重要な線が出ています。

週足、日足どちらのチャートに適用しても解釈は基本的には同じです。ご存知の様に日足は目先の動きであり、週足は中長期の動きですので出来れば両方を把握する事が望ましいでしょう。たとえばまず週足チャートで買いシグナルとなるローソク足の2本組合せが出ていないかをチェックし、該当する銘柄があれば日足チャートを見て買いシグナルが出ていないかをチェックすると言ったやり方が良いのではないかと思います。週足の動きというのは中長期のトレンドを表しており、中長期的に株価は上に向かっているのか又は下に向かっているのかをチェックする為に見るべき物であり、週足チャートで買いシグナルが出ている銘柄を買う場合に、いつ買うかと言うベストのタイミングを見つける為に見るのが日足チャートとなるわけです。基本的にはその様に全く違う目的があるのです。(週足は大局、日足はタイミング) 言い換えれば片方だけでは片手落ちであり、両方(日足、週足)揃って初めて1つの物と言ってよいでしょう。もちろんローソク足だけで全てを決めることは禁物です。なぜならどれか1つだけを使って相場を判断することは基本的には不可能な事なのです。より精度を高める為にも最低限「ローソク足」と「移動平均線」と「トレンドライン」の3つの分析手法をマスターする事が不可欠です。最低限この3つをマスターしてから現実の株式投資に活用してください。